令和4年度　小平市立小平第九小学校　学校評価報告書

学校教育目標　**〇よく考えすすんで学ぶ子　〇助け合うやさしい子　〇心も体もたくましい子**

人権尊重・生命尊重の精神を基調とし、心身共に健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。同時に、グローバル化、情報技術革命、SDGs、環境問題、少子高齢化等社会や時代の変化に主体的に対応し、生涯を通じて学び続けていくための基礎を培うことを目指す。

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　誰にでもやさしく、誰からも愛される学校　～一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくりを通して～

【目指す児童・生徒像】　●将来に向かって、学び続ける子　●自他を大切にする子　●運動に親しむ子　●地域を大切にする子

【目指す教師像】　「一人を大切に、みんなを大切にする学級、学校づくり」を目指す教師（日々の研究に励み、指導力を高める、指導者としての人間性

前年度までの学校経営上の成果と課題

学校評価の各項目において保護者・地域の方から概ね肯定的な回答を得ることができた。今年度も「誰にでも優しく、誰からも愛される学校」の実現のため、自分や友達の命を大切にすることを第一に、教育活動を推進していく。
今年度も新型コロナウィルス感染症防止対策のため、保護者が来校する機会が少なくなることが予想される。昨年同様に各種通信、ブログ等を活用して子どもの様子や成長などを発信していく。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標	成果目標		努力目標	成果目標		
学力向上	・授業規律を確立させ、「分かる授業」を目指し実践を重ねる。	4	4	・朝学習で東京ベーシックドリルを活用し、計算、漢字練習、読書を行う。 ・算数習熟度別指導では3年生以上の算数は、2学級3展開を行う。（4年生は3学級4展開） ・九小スタンダードに基づいた教室環境づくりを行う。学期に1回、チェックリストを用いた点検を行う。	4	4	「授業ルールを大切にし、分かりやすい授業を実践している」と回答が多かった。引き続き、学習規律を定着させ、児童にとって分かりやすい授業を行ってほしい。一斉指導をする中でも、個に応じ指導も心がけてほしい。	今年度の取組を継続し、教員の授業力を高める。習熟度別指導を中心に個に応じた指導を意識して取り組む。ユニバーサルデザインを意識した授業にしたり、東京ベーシックドリルを活用したりして、児童の学力向上に取り組む。昨年度までの研究で培ってきた、「分かる授業」の取組を生かして授業改善に励む。日々の授業について、学校便り,学年・学級通信、、ホームページなどを通じて定期的に配信していく。
	・読書にすすんで取り組む児童の育成を目指し実践を重ねる。	4	4	・年3回の読書旬間を実施し、朝読書や読み聞かせを行う。 ・図書室の掲示物を季節ごとに変更し、推薦図書を年間10回変更して提示する。 ・読書マラソンを行い、読書の記録が蓄積できるようにする。	4	4	毎週の読書の時間をしっかりと確保し、読書マラソンカードを活用しながら継続的に活動している。学校から貸し出している本を家庭に持ち帰って読書するようになってきている。	読書マラソン推進の取組を継続し、「読書旬間」を次年度も設ける。読書をしているが、本のジャンルが偏る傾向性もあるため、国語や図書の時間、朝読書の時間などを使って、幅広く読書ができる環境をつくる。「読書活動」の取組について、引き続き、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。
健全育成	・教師と子どものよりよい人間関係づくりを行い、いじめのない居心地の良い学級づくりを進める。	4	4	・東京都人権尊重教育推進校として、「生命を尊重し、自他の命を大切にする児童の育成」を校内研究のテーマとして取り上げ、目指す学校像に迫る。校内研究授業を年間5回実施する。 ・管理職が、一人一人の教員に年間3回の授業観察を行い、よりよい人間関係づくりを指導する。 ・年3回の特別支援教育の教員研修会を実施し、児童理解の方法や内容、特別支援教育の進め方を研修する。 ・いじめに関する子どもアンケート調査,いじめ防止授業を全学年対象に年間3回実施する。 ・子どもの生活の様子に関するアンケートを2学期に実施する。	4	4	「子どもが居心地の良い学級・学校づくりに努力している」と回答が多い。今後も児童一人一人が楽しく学校生活が送れるようにしてほしい。	来年度も、「助け合うやさしい子」を重点目標とする。「自己肯定感を高め、自分のことも相手のことも大切にできる児童の育成」を研究主題とし、「誰にでも優しく、誰からも愛される学校」の実現のため、気持ちを伝え合い、認め合う活動を重視していく。道徳の授業を充実させると共に、いじめ防止授業を年3回実施し、児童の人権に関する知的理解を促すとともに人権感覚を養う。
	・すすんであいさつをする「あいさつ名人」を目指す活動を行う。	4	4	・毎朝、全教員が玄関、教室で登校する児童を待ち、あいさつ活動を行う。 ・実施期間を決め、あいさつ隊の児童があいさつ活動を行う。 ・毎月1回、朝会等であいさつの大切さを校長や教員が講話として話す。	4	4	校内ではあいさつができるようになっている。校外でも自分からあいさつができるようになった児童が多くなってきている。今後も、保護者、地域も意識して声をかけ、あいさつの大切さを伝えていくとよい。	今年度より異年齢集団によるあいさつ当番を実施したことにより、児童同士での関わりの中であいさつへの意識が高まってきている。「あいさつ運動」の取組について、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。
健康・体力づくり	・基本的な生活習慣の定着を図るとともに体力づくりに取り組む。	4	4	・栄養士や薬剤師との連携による食育や薬物の授業を各学年1回以上実施する。 ・「早寝、早起き、朝ご飯」の指導を毎月の全校朝会等で行うとともに各種の通信で啓発活動を行う。	4	4	「早寝・早起き・朝ご飯」についてよく指導している。家庭の事情で朝ご飯を食べて登校しない児童もいる。引き続き、保護者に協力を呼びかけるとよい。	時間を守って生活でき、給食を残さずに食べているという児童が多い。今後も食育の授業を通して、児童に食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようにしていく。「食育指導」の取組について、学校便り、ホームページなどを通じて定期的に発信していく。
		4	4	・体力テストの結果を分析し、体育委員会を中心とした体力アッププロジェクトを学期に1回実施する。 ・たてわり活動での遊びやなわとび等の体育的な集会活動を年間10回程度実施する。	4	4	校庭で意欲的に遊んで体力をつけようとしている児童もいるが、運動や外遊びが苦手な児童がいる。休み時間に校庭で遊び、体を動かす機会を増やしてほしい。	休み時間に校庭に出て体を動かす児童が増えた。今後も体力向上を目指していくために、感染症対策を取りながら、体力アッププロジェクトなど、体力づくりに取り組む機会を設け、日常的に体力向上を図る。
地域との連携	・学校支援ボランティア等の教育力を活用する。	4	4	・地域・保護者から学習支援ボランティアを募り、多くの目で学級・学校を見守る。 ・青少対と連携協力した行事を年間3回行う。 ・地域・保護者と連携・協力して「ハッピー九」活動を年間15回程度実施する。	4	4	様々な機会で保護者や地域の方々の協力を得ることができている。今後も教育活動で地域や保護者の協力が必要な際は、呼びかけるようにしてほしい。	学校経営協力者の協力で活動しやすい環境が整ってきている。今後も地域・保護者と連携・協力して教育活動を行う。学校内の安全はもちろんのこと、交通安全など校外における安全指導も継続していく。
小中連携	・小・中連携教育の5つの視点に取り組む。	4	4	・小・中連携の日の活用（年間3回）を図る。 ・中学校と合同で、あいさつ運動、授業体験、部活動体験を行う。 ・「小・中連携教育」について、定期的に学校便り等で発信する機会を設ける。	4	4	「わからない」の回答が多いことから、地域・保護者に「こだいらの小・中連携教育」について、本校がどのような取組をしているのか理解が浸透していない。具体的にどのような取組をしているのか、定期的に家庭に発信していく必要がある。	小中連携の取り組みについて、学校便り等で定期的に発信してきたが、「わからない」の回答が多い。地域・保護者に向けた「小・中連携教育」の取り組みについて学校ホームページも使い、より詳細に発信していく。
業務改善・働き方改革	・業務改善について教職員の意識改革を図る。	4	4	・月曜日の掃除や職員連絡会（夕会）をなくす等、学年・学級事務や教材研究の時間を確保する。 ・SSS（スクールサポートスタッフ）を活用して学級事務を分担し、ひとりひとりが抱える業務を軽減する。	4	4		事務作業量の減少、教材研究や児童と関わる時間の増加など、勤務の負担が軽減できていると考える教員が多い。引き続き、業務の重なりや担当の負担など、学校全体の業務を見直し、勤務環境の改善を図る。